

## 第6回 総合都市交通マスタープラン策定検討委員会の要旨

日時：平成24年1月17日（火）午後2時00分から4時00分

場所：名張市防災センター 2階 防災研修室1, 2

【委員】自転車駐車空間の整備について、自転車も車なので駐車空間という表現は良いが、自転車駐車場は一般的には駐輪場と言い、車の駐車と混同する恐れがあるので、表記を整理してほしい。

自転車駐車場の設置など、駐輪場と表記して差しつかえないところについては駐輪場に改め、空間分類における駐車空間などについては現在の表現で、全体を見直した中で整理をさせて頂く。【事務局】

【委員長】ビジョンの件については、特に「結いのまち」というのがすごく良い言葉だとここでも議論があって、残念ながら結いのまちが使われなかったが、その辺りの経緯を簡単にご説明頂きたい。

【委員】結いのまちという言葉自体は大変良い言葉だと思うが、実際のところ若い世代の方は全くピンと来ない、実感としてそういう言葉がまず生活の中になく、全くイメージ出来ないのもそういう言葉を持ってくると注釈がいるという形になる。逆に年配の方は、昔の非常に拘束のきついものとしてイメージするという指摘があり、若い人には通じ難い、ある程度高齢の方になると、今私達がここで捉えている結いとは違う意味でのイメージがどうしても出てくるということで、新しい時代に向かって発信したいという時にこの言葉は入れにくいだろうということで、今回は省かせて頂いて、今のビジョンとした。しかし、この言葉が持つ意味には同意出来るので、これから名張の色々な施策の中で現代的な「結い」を情報発信し、広がってから様々な計画で使う言葉であるとの結論であった。

【委員長】前回小委員会の後に地域の方に残って頂いて、ご議論頂き、このような形になったので、お認め頂きたい。

【委員】重点施策の実施に向けてという形で追加されている部分だが、これまで、名張市の都市交通の問題・課題を整理し、基本的にはこの問題・課題に対応すべく4つの計画に添って、具体的な内容を整えてきたので、重点施策というならば、各計画の中で大きく盛り込んでいくべき内容を書くところではないかと感じる。そういう意味で、議論をしてきたがまだもう少し手を付けていないところがこういう部分でありますということであれば、重点施策ではないのではないか。

今回追加させていただいたのは、従来から私どもが抱えている課題である。将来幹線道路網計画に向けては、都市計画道路の見直しが必須であるが、現在のタイトルは相応しくないもので、再検討させて頂く。ここでは、将来幹線道路網を考えた時に量的な観点でどういう結果だったかということ整理し、量的な役割を担わない道路について、その道路の必要性について検討していくということを述べている。いずれにしても懸案事項の扱いをどうしていくかについてタイトルも含めて整理させて頂く。【事務局】

【委員】ナッキー号については市街地循環バスに機能分類され、主体としては地域、交通事業者、行政が協働で政策的に運行すると書かれている。政策的に運行を維持すると言いつつ、受益者負担の議論を進めるといふのは、今後必要があるにしても、このマスタープランで触れるのには違和感がある。

受益と負担を考えた時に、地域コミュニティ交通、コミュニティバスの課題をどう捉えているのかと

いう問題についてはこれまでも提示してきている。その中で、地域コミュニティ交通は基本的には、受益者負担とサービス水準について、地域で主体的にバランスを取って頂き、行政はシビルミニマムとしての機能をきちんと担保するために補助金を支出していると認識をしている。一方ナッキー号は、利便性の確保を目的としており、市街地のまちづくりに寄与するというので、少し負担のあり方は違うと考えている。この 2 つの役割が違う中で、特にナッキー号について市民のご意見が多く、ここでは、今後サービス水準と併せて、将来負担をどう考えていくのか議論をしていきたいということに記載させて頂いた。ナッキー号については、サービスと負担のあり方を行政から発信し、議論していきたいということである。【事務局】

【委員長】普通に読むと、「公共交通は地域を支えるために必要だ、生活の移動手段だ。」とか「環境にやさしい交通」とか「住民の方々が協働でやっていく」と読める。ナッキー号も「市街地循環バスとして政策的に運行維持をしていく」となっている。これが急にナッキー号の受益者負担という話が出てくるので、少し違和感がある。その流れをもう少し普通に読めるような流れにしていけないといけない。多分ここで重要なのは、1 つは支線バスに関して地域の方々が考えた運行、それはその他の意味も含めて旨く回っている。一方で市街地循環バスでは地域の方々が貢献出来るような仕組みとは少し違う、その中でサービス水準の向上を望まれ、政策的な意味もある。その上で財政的な支出には限界があり、それに関しては今後検討していく、そういうことだと思う。ここの記載には、料金改定を視野に入れたとあるが、これは多分料金体系も含めた検討を進めるということで、要は、サービスの向上や持続可能な運行に向け検討を進める。その「検討を進める」の中に料金体系も入っているということだと思う。

その辺りの視点からタイトルも含めて整理をさせて頂く。【事務局】

【委員長】公共交通を充実する、利用促進に取り組むとしているが、とは言っても、持続可能性は重要なので、持続可能な運行に向けた課題として、財政支出というところからナッキー号の課題に落とし込めば自然な流れである。同様に都市計画道路に関しても長期未整備というのがあり、大きな課題なので、そこから見直しへ持っていけば良いのかも知れない。そういうことも含めて少し検討して頂きたい。

【委員】プランの中で、問題と課題を書き分けているが、混在化している部分があるので整理する必要がある。また、誤字もあるので修正願いたい。

問題と課題については、全体的に用いている言葉なので再度チェックし、整理する。誤字や送り仮名の不統一についても再度見直し修正させて頂く。【事務局】

【委員】プランでは、地図等でビジュアル的な資料を沢山使っているが、誰が見ても分かりやすいように、ユニバーサルデザインの観点の色使いで整理した方が良い。次に安心・安全な交通まちづくりに関する問題・課題で、表の名張市防災計画から引用している地震発生確率だが、確か東海地震の発生率が 88%に上がったはずなので、この計画が出来るのが平成 24 年ということもあり、基本的には防災計画から引用しつつ、最新の資料から数値が取れるところについては注釈を入れながら書いて頂いた方が良い。最後に将来幹線道路網計画の中で、国土軸（新名神高速道路及び名阪国道）という言葉が使われているが、国土軸という言葉は一般的でなく分かりにくいので、例えば高速道路網等の様に、平易な表現にして頂いた方が良い。

図表や文字等については、本日の議論を踏まえ、中間報告を整理する段階でレイアウトを含めてユニバーサルデザインに配慮して整理させて頂く。また今後、本委員会の中間報告に基づいて素案を作成す

るが、パブリックコメント等で市民の皆様方に見て頂くということから、その段階においてももう一度整理させて頂く。地震発生確率については、最新の数値を入れて注釈を入れるということで対応させて頂く。国土軸については、実際にこのマスタープランで指しているのは新名神や名神で、名阪国道を介したアクセスについて記載しており、具体的な路線名で表記をさせて頂く。【事務局】

【委員】確認ですが、今回は都市計画道路の見直しについては過去の計画を特に変更するというようなことが出ていないが、問題は旧市街地の都市計画道路は 50 年程前に計画し、今なお整備の見通しのない路線があるが、それをどうするのかということがマスタープランの中に入ると思っていたが、その記載がない。今回は触れずに別の機会に委ねるという考えだと思うが、それを確認しておきたい。それから関連するが、旧市街地については今の道路計画を実現出来ない中で、これまで何回もまちの再生計画が持ち上がっている。30 年ほど前には元建設省のシェイプアップマイタウン構想、その後 20 年程前には商工会議所が提案してきた商店街活性化策定事業、それから最近では、名張まちなか再生プラン、このまちなか再生プランは、1 年半程掛けて議論してきて平成 16 年ぐらいに出来上がり、まちづくりということで進めてきたが、現実には頓挫してしまった。今はやなせ宿があるが、殆ど事業が終わっているということで、本当にまちなか再生というのは難しい。このマスタープランにも様々な主体の協働によって進めると書いてあり、非常に良い計画だが、極めて難しいこともあって、旧市街地についてはどうするのかという議論が沸きあがったら良いが、そういうことについて十分事務局の方で対応を考えて頂きたい。

都市計画道路の見直しについては、今回のマスタープランの中で、現在ある道路計画が 20 年先の将来を考えた時に、量的なネットワークを担う道路であるのかどうかを整理させて頂いた。ここで量的な役割を担うと位置付けられた路線については、基本的には整備を進めていくということなので、今後の課題としては、どこから整備をしていくことが効果的なのかということの整理が求められ、量的に車を流すことに対して大きな役割を担わないとしたところは、他に考慮すべき点として都市計画道路の機能を残しておかなければならないことがないのか。ないとすればそのところは確かに 50 年近く権利を制限し続けてきたということもあるので、丁寧に説明してご理解を頂いた後に、計画の変更や廃止を進めていきたいと考えている。一方まちづくりについては、今名張地域のまちづくり組織でビジョンの策定をして頂いており、その中で再生プランに関わる様々な方向性はビジョンとして掲げられることになろうかと思う。名張地域は平坦で、駅に近いという地形的な有利性、歴史的な建造物等もあるという中で、色々なまちづくりを考える際に、どのような道路が必要なのかということも含めて議論をさせて頂きたいと思っている。【事務局】

【委員長】都市マスタープランでも、そんな計画があるのかといった議論から始まることもあったが、今の話を聞くと名張の市民の方々がひょっとしたら行政の計画に対して不信感をかなり抱えていて、不信感を抱くと期待を持ってもらえないと感じる。そういう意味でこれからの計画は、実施出来ることをしっかり押さえるというのも 1 つの方法かという気はする。従ってこの後のアクションプラン策定の時に具体的に書き込んでいくのが非常に重要になってくる。よくまちづくりでワークショップもあるが、住民の方々がワークショップ疲れして、何回目のワークショップなのかということを知りたがるが、今回これでまた議論が盛り上がってくれば、今度は実施に向け、やれる範囲でやるということを明確にすることが 1 番重要なことだと思う。

【委員】今、地域活性化が大変な問題になっている中で、このマスタープランでも、西側の交通道路網を見た時には流通が悪い。マスタープランに挙げているが、中和幹線もこちらから要望してもなかなか出来ないということが分かってきて、名張市の南西部から名阪とのアクセスを考えた時、地域としては、鹿高1号線を拡張して、名阪に繋ごうという道のプランを立てている状態である。今までにも今回のマスタープランのような計画があったが、書いてあることが常に同じ内容で、予算が伴うことばかりだが、そのお金が全く投入されないということも予想されるので、抽象的な表現ではなく、国、県と同時に大きな組織で動いていけるような、実現性のあるプランでないといけないと思う。また具体的に、いつまでに進めて、一層充実させるとか、区切りのある内容を書けないのかという気がする。この縦軸・横軸だけの大きな幹線というのではなくて、もっとこの名張市を取り巻く緊急網を兼ねるような循環道路というものもこの交通軸の整理という大きいビジョンの中で考えてもらわないといけないし、何か手狭なところだけ直しているような感じがするので、何年にそれを実現させていくのかを明らかにするのがマスタープランだと思う。

西側、南西部から名阪への接続や中和幹線あるいは南阪奈道路への接続というのは、実際問題として名張市だけで整備をしていくということは出来ないが、様々な計画で名張市は三重県の西端で、近畿圏との接点であるという位置関係にあり、そのことを活用したまちづくりというものをこれから先も目指していこうという立場は常に書き続けるということで臨んでおり、そのことについては名張市としての方向性として常に認識している。一方、マスタープランの性格上、あることを5年で整備する、10年で整備するということを書くことはなかなか難しい。【事務局】

【委員長】マスタープランは基本方針なので様々な方向性を書いてあるが、アクションプログラムでは、優先順位を付け、どこを優先的に整備していくかということを確認にしていく。マスタープランの場合はそこまでは書き込まないということなのでご理解頂きたい。次のステップであると認識頂きたい。やはり皆さん方は次のステップへの移行というのを望まれているので事務局としてそういった方向へのご検討をお願いしたい。あと、環状道路という話があったが、非常に夢のある話だが、これからの名張を考えた時に少し整備し過ぎと言うか、今後の維持管理が大変になり、道路にそれだけお金を使うと他の施策に使えなくなるので、市民の方々がその計画に賛同できないのではないかなと思う。事務局を代弁させて頂くと、何故20年前からずっと書いてあるのかということについては、残念ながら名張市だけで作れるものではなく、またこれが書いていないと作る希望も全くなくなるので書かざるを得ないということだと思う。一方市民の方々からすると書いてあるのに何10年も出来ていない、不信感を抱いているということだが、そのことについては、行政も説明責任を果たすことが重要である。その説明が全くされていないと、住民側からすると何もやってない、何も整備してないと、行政は単に批判の対象になってしまうので、この辺りの住民対話というのがこれから重要になってくる。そうしたことも是非名張で実現して頂きたい。

【委員】都市道路ネットワークの東西・南北の都市交通軸の整備では、市民の生活、産業活動、物流、医療、災害対策、観光、交流などを担うとあるが、文化についても入れておくべきではないか。

基本的に交流に含まれてくると思うが、より明確に示すとなると、単純に文化を加えるということにはならないかも知れないが、文化的な交流や歴史文化を活かした観光、そういうものも全てを担う軸であるということをごここでは表現したいので、少し書き加えるなどで対応する。【事務局】